

KTK

NO.104

後援会費郵便替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 あらぐさ後援会

編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会

〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3

TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

さをり織り



京都府では毎年、その年にめでたく100歳を迎える方へ、敬老のお祝い品を贈っています。そのお祝い品用として、さをり織りをしている作業所は、肩掛けの発注依頼を頂いております。あらぐさも毎年参加させて頂いており、今年は全部で約900枚、その内あらぐさは約160枚を担当させて頂きました。

この肩掛け納品に向けて、6月より準備をはじめてきました。あらぐさでは整経をする人、織機に糸を張る人、織り上げる人、肩を作る人と、工程ごとに役割を分担して取り組んでいます。メンバー皆で一斉に作業している姿は、「今年もこの季節がきた」と感じるワークセンターの風物詩にもなっています。

「おじいちゃん、おばあちゃん達、喜んでくれるといいなあ」と思いを込めながら一枚一枚丁寧に作っています。

10月5日(土) 第8回 みんなおいでよ~あらぐさひろば

自分の思いを伝えられる

あらぐさの人たちとの暮らし



亜矢子さんは45歳。弟さんと2人姉弟。あらぐさではさをり織をしています。組紐仕立ての細長い紐やショール作り（行政の依頼で百歳の方への贈り物）で忙しくしています。沢山の注文があると、クッキー作りも手伝っています。仕事を終わると「ケアホームいろどり」で友だちと共に生活しています。

おいたち

大山崎町で誕生。お家は理髪店です。1歳から保育所に入所しました。手は掛かっていたようですが、加配は付かず担任の先生が傍にいてくれました。お母さんは、亜矢子さんの言葉が遅いことが気になり、保育所や役場に相談したり、病院で検査を受けたりしました。「そのうち追いつくでしょう」と言われ、心配しながら見守っていました。保育所では、自分の思いや要求を言葉で伝えることができずよく泣いていました。特にトイレは、計画された行動の途中で自分から言い出しにくく失敗することが多く、つらい思いをしました。



地域の障がい児学級へ通う

就学を考える時期、校区の校長先生に相談しました。その年から障級ができ、長岡第八小学校に入学することにしました。地域の4人の友だちと一緒に、とても安心しました。中学校は長岡第三中学校へ進学しました。

お家ではおとなしく、人形やままごとなどのおもちゃでいつも一人遊びをしていました。親にとってはとてもやり易い子でした。

土日はお父さんもお母さんも仕事で忙しく、おじいさんやおばあさんたちに子守りを手伝ってもらうこともありました。お父さんの京都市の実家は、着物の紋の刺繍をしていました。亜矢子さんが、針仕事が好きなのもその影響があったかもしれません。



サッカー見学でラモス選手と対面する亜矢子さん

お母さんの実家は美山で、連れて行くのも来てもらうのも大変でした。現在93歳になるおばあさんは、いつも「亜矢子はどうしている？」と気に掛けていますが、亜矢子さんは「あらぐさの仕事が忙しいから休めへん」と言い、最近は会えていません。

高校からは向日が丘養護学校へ

地域の障級は、向日が丘との交流があり、知っている人が多く心強かったです。

1年目は、養護学校の送迎バスを利用しました。2年目からは、進路に向けて自主通学をするように勧められました。乗り換えを要する阪急バスでの通学、お母さんは心配で隠れて見守っていました。亜矢子さんは、定期券のケースを持ってバス通学できることを喜んでいました。何度か、乗り換えに失敗して大探しをしたこともありました。

高等部卒業後は、あらぐさへ

進路はあらぐさに決めました。向日が丘の1年先輩がさをり織をして頑張っている様子を、亜矢子さんは見ていたからです。

当初は、久貝にあった事業所に通っていました。親も資金作りで当番や会議をする必要がありました。交流会的な会議やイベントをお母さんが参加しやすい日に配慮してもらいました。無認可時代のやさしいあらぐさのお母さんたちとの交流は、今も忘れられません。

あらぐさに慣れ始めた19歳の頃、突然、発作が始まり、1日に何回も起こしていました。どうしていいかわからず、あらぐさに相談して宇多野病院を紹介してもらいました。その間は記憶がとび、人の名前も覚えられず大変でした。30歳ぐらいまで続きましたが、今は発作もなく安定して生活できています。

20歳の時、あらぐさで成人式をしてもらいました。職員の方がギターを弾いてお祝いの歌を歌ってくれました。亜矢子さんはお母さんに「育ててくれてありがとう」の言葉に添えて、自分で織ったさをり織のショールをプレゼントしました。



ケアホームいろいろでの暮らし

あらぐさが認可になり、バス通勤から施設の送迎となりました。その後、将来に向けてのケアホームづくりをみんなで頑張り「いろいろ」ができました。亜矢子さんは、ひまわり園での短期入所でも楽しかった体験があったので入所を希望しました。



いろいろ生活は8年目です。聞いてほしいことや困っていることを、その都度うまく伝えられず、お家でお母さんに話し、ノートに書いて伝えてもらったり、あらぐさの相談支援事業「みちくさ」の担当者と話したりして間接的に伝えていました。でも、徐々にいろいろの職員に直接話せるようになってきました。今では、相談は必要な時にすればよいと思ったのか「みちくさはもう（十分に相談できたので）いいです」と宣言したらしいです。いろいろでの亜矢子さんは、お家ではしなかった身の回りのことがきちんとできるようになりました。毎朝、自分の部屋だけでなくリビングの掃除もしています。お母さんは、亜矢子さんに家事を教えることは必要と思いつつも時間に余裕がなく親がしてしまっていました。洗濯や片付ける技術が付いたのはいろいろに入ったお蔭だと、お母さんは感謝されています。



家での暮らし

おもちゃで遊ぶ、本を読む、日記を書くなどは、小さい頃から気に入っている自分一人の時間です。お母さんが多忙で、一緒に説明書を見るまで待てず、タペストリーやティファア結婚衣装を自分一人で縫っていました。

困っていることがあります。収集した紙類を箱やポーチやポケットに、きっちり収めきりたいという拘りがあることです。家でもいろいろでも思うようにいかないと、部屋から出て来られなくなったり、イライラしてしまったりします。アドバイスを聞いたり、助けてもらったりしながら少しずつ拘りへの解決ができるようになってきています。

ガイヘルは月に16時間。水族館、映画館、買い物など色々な所へ出掛け楽しんでます。

お母さんは、一日でも早くいろいろで、24時間365日支援を受けながら生活できるようになることを願っています。

(取材：前田幸子 真殿尊子 森垣美知子)



七夕のつどい

7月8日に本館1階ホールにて、デイ1主催で3回目となる「七夕のつどい」を開催しました。

つどいの準備は、Aグループの利用者が、日時を記したポスターを各グループに配る事から始まります。一方、Bグループでは、職員が大きめの笹を用意してホールに据え付け、利用者が色画用紙を切り出して短冊にし、麻ひもと一緒に各グループに手渡していきます。つどいの3日前には、利用者の願いが描かれた短冊や、綺麗な飾りが沢山結びつけられ、笹が大きくなっていました。

短冊の一部を紹介すると、「クッキーたくさんうれますように」や「おでかけしたい」、「CDを買う」といった身近な物から、「(歌手の)グリーンといっしょにうたいたい」など、夢のある願いごととも記されていました。

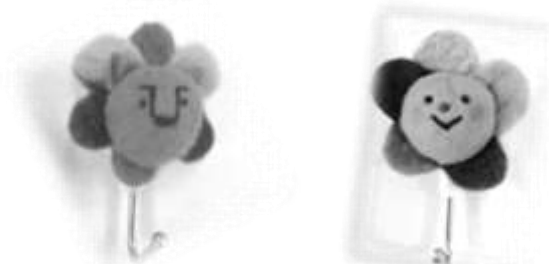
七夕のつどい当日は、素敵な浴衣に身を包んだ中野さんの挨拶から始まり、職員によるウクレレの弾き語りや、七夕や夏にちなんだ歌、リクエストのあった歌を楽しんだ後、ジュースで乾杯しています。



製品紹介

D2 グループ

らいおんフック ふうらわ〜フック



今回紹介するのはデイセンター2のフェルト活動で作っている、『らいおんフック』と『ふうらわ〜フック』です。

「今日はボール作る!」「みんな(お客様)喜んでくれるかな?」「どんなもの作る?」と、みんなで相談しながら進めています。利用者の方の気持ちがあっぴりつまったフェルトは、改めて手づくりの温かさを感じることができます。沢山の方に手作りの良さを伝えたい!そんな気持ちからこの製品ができました。

冬カタログにも掲載していますので、是非ご覧下さい。

らいおんフック・ふうらわ〜フック 各 450円

時事 コラム

食事提供体制加算について

障害福祉センターあらくさでは、収入が一定額以下の利用者に事業所が食事を提供した場合にその経費の分として食事提供体制加算(一人当たり一日30単位(約300円))を受けています。そのため現在、利用者さんの給食費は、食材料費のみの負担で済んでいます。

しかし、この間の障害福祉サービスの報酬改定のたびに存続が危ぶまれている加算でもあります。平成27年度の報酬改定で42単位から30単位へと減額されたことに加

え、その加算も平成30年3月31日までの経過措置とされていました。

平成30年度の障害福祉サービス等の報酬改定では、食事の提供に関する実態等の調査・研究を十分に行った上で、引き続きその他あり方を検討することとし、今回の改定では継続するとなりました。

このさき食事提供体制加算が廃止されると事業所収入も減少し、加算が廃止された分、給食費として利用者負担が多くなることが予想されます。事業所だけではなく、利用者さんも負担増を苦しむ利用控えが生じる可能性について懸念されています。



あらぐさ後援会 加入・募金 ありがとうございました

2019年4月1日～8月10日 (敬称略、順不同)

青嶋芳文 赤井綾子 秋山喜美江 浅野晃生 東俊明 荒木満 荒木まち子 粟田士郎 粟田紀江 阿波谷陽子 粟津芽生 井垣優 池田恭子 池田廣子 池田芳子 井古テル子 石田秀子 石堂宏宜 石野拓 石野洋子 石橋雅子 石原洋子 石村和子 一谷孝 伊地知洋晃 伊地知有華 一箭浩志 伊藤和雄 伊藤勝久 伊藤五郎 伊藤澄子 伊藤憲一 稲葉薫 因幡広和 井上敏子 井上治夫 今井和子 今井三郎 今井正 今西正昭 今西さよ子 岩崎英雄 岩崎泰子 上田和美 植田進 上田義博 浦さち子 大江潤 大谷智子 大塚とも子 大槻昭 大槻さつき 大槻裕治 大林雅子 小川直 小川貴士 小川真寿美 奥田保 奥山禎二郎 小谷勝利 特定非営利活動法人乙訓介護サービス 乙訓教職員組合 乙訓地区労働組合協議会 小野信子 甲斐幸子 垣内望美 勝良和子 桂誠司 桂典子 要建設株式会社代表取締役社長三輪泰之 金森たえ子 金子美智子 金原医院金達龍 河合隆平 川口淳子 河村千鶴子 河村雅之 神田千秋 菊井誠 木村まき子 木村嘉男 久保節子 鞍貫聡史 倉橋克之 小池良一 上坂愛子 後藤邦子 小林保太 近藤健二 斉田昭子 斉藤哲雄 斉藤泰樹 崔本鐘光 坂本憲哉 株式会社坂本建設 相良乙若 桜田吉昭 佐々木康二 佐藤卓利 澤月子 塩尻光明 四方政則 柴田和泉 島津絢子 嶋本芳輝 嶋本美恵 下尾医院下尾和敏 新免富美子

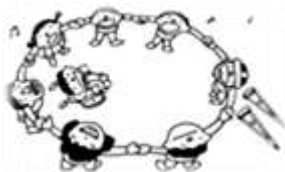
鈴木純子 鈴木千賀子 角誠一 角摂子 住田珠江 住田初恵 節田もと 専修院福本哲了 田上玲子 鷹野安子 高橋久美子 高橋光子 高谷莉央 滝川典生 竹澤哲夫 竹下久美 武永健二 多田久美子 立山純治 田中栄治 田中洋行 田中正恭 田中礼子 谷口忠行 田沼立也 玉木洋子 俵福造 千葉善清 長誠一郎 長理恵子 築出邦子 辻真菜美 津田みさ子 土岡ひとみ 寺家義人 都出とし子 東宮健史 東宮靖武 富島ますみ 富永洋子 内藤敬子 内藤時子 長岡天満宮社務所 中川政之 中川千津子 中川綾子 中川美智子 永崎みさと 永崎靖彦 中路克介 中谷ちよみ 司法書士中西正人 中野修 中野円 中野史子 柳楽幸子 夏川久子 西幹男 西井美千代 西村栄治 西村宗昭 野畑光代 長谷川朋子 長谷川長昭 畠中清子 畠中勇治 八田萬喜雄 浜野利夫 浜野紘久 早川美智子 林英夫 春田石油有限会社 ばんだ企画 ビューティサロンナティ岩藤由美子 平井多津子 平岡芳子 平塚洋子 平野みどり 平山功 廣岡富美子 廣瀬彩子 広瀬美砂 福井共子 福祉保育労あらぐさ分会 福島緑 福元晴茂 福山八千代 藤本秀延 藤原啓子 ベーカーリーセルフイーユ 細井創 細井雅代 細井のぞみ 細川幸子 本田章子 本田よし子 前川明雄 前田幸子

2019年度あらぐさ後援会

- ・会員更新がまだお済みでない方は、同封の振込用紙にてよろしくお願ひします。
ご入金と行き違いになりました場合は、なにとぞご容赦ください。
- ・あらぐさ支援募金にもご協力をお願いします。



みんなおいでよ～あらぐさひろば



2019年10月5日(土)

午前11時～午後2時

障害福祉センターあらぐさ



始まるよ!

8回目となる「みんなおいでよ～あらぐさひろば」を開催します。

見たり、聴いたり、遊んだり、食べたり、そして買い物も。ワイワイと話し、楽しく交流しましょう。

今年も地域のお店の商品やあらぐさの製品が当たる「福引き」が準備されています。

<案内チラシをご覧ください>

過年度の「ひろば」より

当日、あらぐさ後援会の会員更新・加入や支援募金の受付を行っています

<前頁より続き> 前田真之介 前田仁
前田良子 増田弘子 増田康夫 増田靖子
有限会社街かどケアセンター 松浦佳織 松岡
稔 岩倉美希 松島朱美 松村昭子 松山幸次
松山雅子 真殿尊子 丸岡敏夫 丸岡正子
丸岡勇毅 丸山彰子 三浦朱葉 三木孝子
造酒豊 水口秋子 水野美根子 三橋眞子
峰島厚 三宅麻葵 三宅善昭 三柳美里 宮本
史朗 村井悦予 村上宏 村田清子 村山容祥
銘苅貴徳 森垣美知子 森上郷 森川浩世
モリカワ商事株式会社代表取締役木下泰一

守屋伸江 八木勝光 八木幸一 八木千代子
八木みさを 安井冽 安井裕之 安井芳幸
(有)ヤスイカメラ 安田耕治 安田隆 安田弘
安武梢 安武真理 安松美佐子 藪見富喜男
山口計子 山口隆史 山口武彦 山崎諭 山下
敏夫 山田央 山田孝子 山田陽子 山中繁
(株)ユニバーサルホームサービス 横川和男
横川喜美江 横川安子 横山和子 横山昌子
吉岡恭子 吉川百合子 吉瀬順子 渡邊美幸
渡辺裕子
匿名25名

さる6月16日、定時評議員会にて、任期満了に伴い新役員（理事、監事）が選任されました。任期は、令和元年6月16日から令和3年6月の定時評議員会までです。

◇選任 理事 角攝子・高野泰男・富森尚子・永崎靖彦・野々下靖子・古川拓・山本弥生 （7名）

監事 上村義美・小坂文夫 （2名）

◇退任 理事 安田隆 （敬称略、50音順）

同日、新役員による第2回理事会にて、互選により角攝子理事が理事長に選任されました。

退任のご挨拶

安田 隆

このたび任期満了につき、社会福祉法人あらぐさ福祉会理事長を退任いたしました。

5年間にわたる在任中、あらぐさ後援会ははじめ市民の皆様には、格別のご理解ご協力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

顧みますと、平成17年に法人化された施設の施設長として着任して以来、さまざまな役職を担わせて頂きましたが、この間の法人を取り巻く情勢は障害者自立支援法の施行や、社会福祉法人の在り方改革など国の法制度が大きく変わる時期でもありました。そのような中であっても、あらぐさの理念を実現すべく、微力ながら時々の課題に取り組むことができましたのは、皆様のお支えのおかげと、心より感謝申し上げます。

退任をいたしますが、あらぐさへのご支援を今後とも賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶

理事長 角 攝子

私こと6月16日の理事会にて、安田隆前理事長の後任として、理事長に選任されました。

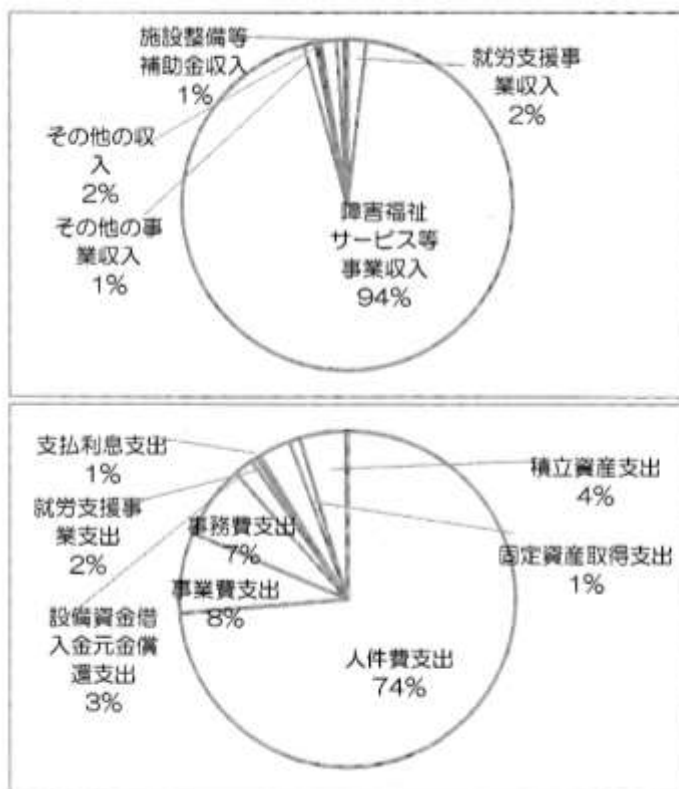
共同作業所をつくる運動の時から関わり、開所と同時にあらぐさ職員となり、35年余りになります。このたびこのような大任をいただくこととなり、身の引き締まる思いと共に、長きにわたるあらぐさのこれまでの歩みの思い、感慨深いものがあります。

法人化になってからも無認可時代の思いを引き継ぎ、「あらぐさに通いたい」と考える日中活動と、通い続けられるための支援をつくろうと事業を広げてきました。これもご支援をいただいた多くの皆様のお力によるものと、心より深く感謝申し上げます。

現在、社会福祉法人のあり方や職員確保の問題など多くの課題を抱えておりますが、「みんながキラリと光るあらぐさ生活」を創り出すために、ご利用者、ご家族、職員、関係者の方々と共に事業を進めていきたいと思っております。これからも一層のお力添えをお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



平成30年度 社会福祉法人あらぐさ福祉会 財務状況



(収入)

障害福祉サービス収入

…障害福祉サービスに対する国、地方公共団体からの介護給付費

(支出)

人件費支出

…常勤職員 50人 非常勤職員 80人

事業費

…主に利用者の活動に関わる支出

事務費

…運営事務に要する支出

借入金元金償還支出

…建物・土地の借入金返済

(平成30年度の特徴)

今年度の決算は総収入、総支出ともに4億1700万円でした。

事業活動収入で見ると、障害福祉サービス等事業収入が3億8000万円となり、前年度より増額しました。これは利用者の増員によるものです。

支出の部では、設備資金借入金元金償還支出として新たに障害福祉センターあらぐさ新館の借入金返済が始まっています。

借入金返済計画に加え、障害福祉センターあらぐさの修繕などを長期的な計画を立てて進めていく時期に来ています。

財務諸表についてはあらぐさホームページに公開しています

<http://www.aragusa-fukushi.jp/>



障害福祉センターあらぐさ 職員

立山 新志 さん

(たてやま あらし)



2018年9月から、あらぐさ福祉会でお世話になっている立山新志と申します。

僕は元々事務や機械を組み立てる仕事をしており、介護の仕事とは全く関わりがありませんでした。そんな中、僕があらぐさ福祉会と出会うきっかけになったのは、父がケアホームいろどりで働いていたからです。

僕の祖母は若い頃、もやもや病を患い、その後遺症で片麻痺になってしまいました。そういったことがあり、父が祖母を介助する姿をよく見ていました。介助をしてもらっている祖母は申し訳なさそうにしており、歯がゆい感じが伝わってきましたが、その反面「おおきに」とも言っていました。僕は子どもながら、おばあちゃんにとって介助してくれる人の存在はとても大事なのだと感じました。

祖母の件があり僕は常に心のどこかで介護の仕事に興味があり、父が働くあらぐさ福祉会のことも気になり始めていました。そしてその気持ちは大きくなり、父に介護の仕事をやってみたいと相談すると、紹介してくれるという話になりました。

こうして僕はあらぐさ福祉会と出会いました。

最初は重度身心障害の方がおられるAグループに所属することとなりました。介護の仕事に興味はありましたが、知識や経験が全くない所から始まった僕は、多くのことを勉強させていただきました。毎日に変化があり慌たしい日が多かったのですが、利用者の方が笑顔になり、喜んでおられる姿を見ると、とても嬉しく充実感をいただきました。

今年の4月からはデイセンターあらぐさ2に所属することとなり、自閉症や知的障害、ダウン症などの障害をお持ちの方々と関わらせて頂いております。

働く環境はガラッと変わりましたが、利用者の方と会話をしたり、一緒に活動に取り組んだり、楽しく仕事をさせていただいています。これからも他の職員と協力し、利用者の方が生活しやすい環境を作っていきたいと思います。

これからもよろしくお願ひします。



1992年6月5日 第3種郵便物承認 (毎月1回25日発行) 2019年9月17日発行
KTK増刊号通巻第4927号 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町519 京都府社会福祉会館4階
京都障がい者連 発行人 高谷修 頒価50円 (購読料は会費に含まれています)

KTK

あらぐさ通信